

令和 8年 7月 24日

座間市議会議長
松橋 淳郎 殿

委員会名	
又は会派名	座間市公明党
氏 名	高柳 浩子

市議会議員のためのハラスメント研修所感

今回のハラスメント研修を通じ、ハラスメントは「悪気がなかった」「そのつもりはなかった」という行為者側の意図で判断されるものではなく、相手の受け止め方や、客観的な視点や社会通念上の視点も踏まえて判断されることを改めて学びました。自分では問題のない言動だと思っけていても、立場や関係性、言葉の選び方によって、相手に不快感や威圧感を与えてしまう可能性があることを常に意識する必要があると感じました。

特に「ハラスメントのワンポイント」の中で、パワーハラスメントは無意識の中で生じやすいとの説明があり、弁護士から「無意識を意識する」ことの重要性についてお話があったことが、大変興味深く、印象に残りました。自分がこれまで経験してきたことや、自分自身の成功体験、当たり前だと思っている価値観は、知らず知らずのうちに言動に表れるものです。本人に悪意がなくても、「自分はこのようにしてきた」「これくらいは普通だ」という感覚が、相手にとっては大きな負担や圧力になることもあります。無意識の言動だからこそ、自分では気付きにくく、日頃から意識的に自らの言動を振り返ることが重要であると感じました。

また、「議員が陥りやすい構造的要因」の一つとして挙げられた「上司不在」という言葉にも、なるほどと思いました。議員は選挙によって選ばれ、それぞれが独立した立場で活動しており、一般的な組織のように、日常的に自らの言動を注意したり指導したりしてくれる上司がいるわけではありません。そのため、自分自身で言動を振り返り、時には周囲の意見に耳を傾ける姿勢を持たなければ、知らず知らずのうちに自分の考えや行動が当たり前になってしまう可能性があります。「誰かが注意してくれる」と考えるのではなく、自らを律し、客観的に振り返る姿勢が、議員にはより一層求められていると感じました。

議員は、市民の代表として行政に対して意見や要望を伝え、必要な改善を求めていく役割があります。一方で「市民のため」という強い思いや正義感があっても、その伝え方や求め方によっては、相手にとって「要望」ではなく「圧力」と受け取られる可能性があります。

ます。議員という立場そのものが、相手に一定の影響を与える場合があることを自覚し、目的が正当であっても、言葉の選び方や伝え方、求める内容や方法が適切であるかを考えることが必要です。

また、職員への資料要求や連絡の時間帯、SNS での発信など、日常の議員活動の中にもハラスメントにつながるリスクがあることを具体的に学びました。必要な意見や要望を伝えることと、相手の人格や尊厳を傷つけることは全く別のものです。相手もそれぞれの立場で職務や活動に取り組んでいることを理解し、相手への想像力を持ちながらコミュニケーションを取ることが大切であると感じました。

議会は、多様な立場や価値観を持つ人が議論を重ねる場です。意見や考え方が異なることを前提に、政策や課題については率直に議論しながらも、相手の人格を否定することなく、互いの立場や尊厳を尊重する姿勢が欠かせません。

今回の研修を一過性のものとせず、「無意識を意識する」という視点を持ち、自らの言動を継続的に振り返っていきたいと思います。そして、「これは相手を尊重した言動になっているか」「自分の立場が相手に必要以上の圧力を与えていないか」を意識しながら、市民の声を行政に届けるという議員としての役割を果たしたいと思います。今後も、相手への配慮と丁寧なコミュニケーションを心掛け、市民、職員からも信頼される議員、そして互いを尊重し合える議会づくりにつなげていきたいと思います。